



Title	台湾活動記録（2019年3月10日～20日）
Author(s)	大坪，慶之；片山，剛
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター. 2021, 10, p. 125-126
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/84928
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

海外調査活動記録

(1) 台湾活動記録（2019 年 3 月 10 日～20 日）

大坪慶之・片山剛

3 月 10 日（日） 【関空発⇒台北着】エバー航空 BR131 便

片山剛（大阪大学名誉教授）・稲田清一（甲南大学教授）・山本一（立命館大学講師）・藤澤聖哉（大阪大学特任研究員）が、関西国際空港から台北に到着する。宿舎は、福華国際文教会館。

3 月 11 日（月） 国史館（台北本館・台北市中正区）

稲田・藤澤の 2 名が調査開始。2018 年 6 月に申請していた登記文書（2018 年 9 月の調査時点のデジタル化未了分）を閲覧する。場所は、第 1・2 区の「日本人街」が中心。2018 年 9 月に引き続き、エクセルの表にデータを入力していく。なお片山・山本の 2 名は宿舎に残り、ニューズレター9号の原稿執筆と編集作業を行う。

3 月 12 日（火） 国史館（台北本館）

調査 2 日目。稲田・藤澤に原稿を完成させた山本を加え、3 名で前日までの作業を継続。片山は宿舎に残り、ニューズレター9号の原稿執筆と編集作業を行う。

3 月 13 日（水） 国史館（台北本館）

調査 3 日目。午前中は稲田・山本・藤澤の 3 名で作業を継続。片山は午前中にニューズレター9号の原稿と編集を完成させ、午後から国史館での作業に加わる。

この日、大坪慶之（三重大学准教授）が台北に到着する。

3 月 14 日（木） 国史館（台北本館）

合流した大坪を加え、総勢 5 名で国史館にて調査を継続する。稲田・山本・藤澤は、前日までに閲覧した登記文書のダウンロードを開始する。一人平均 1500 枚を超える、膨大な量になり、このうち稲田・山本分を科研費で購入する。片山・大坪は、事前に申請していた登記文書を閲覧しつつ、並行してダウンロードも進める。

3 月 15 日（金） 国史館（台北本館）

前日に引き続き、国史館で南京登記文書を閲覧・ダウンロードする。稲田が閲覧した国府路近辺の文書に、1937 年の日本軍による空襲で被害を受けたという記述が出てくる。それを大坪が、前年度に調べた新聞や戦闘詳報などの内容と照合すると、記述が一致することが判明する。最後に、前日購入分を除き、この一週間でダウンロードした画像を、科研

費や別予算で購入する。合計で 8000 枚超となる。

3 月 16 日（土） 台湾師範大学歴史系（台北市大安区）

国史館が休みのため午前中は自由行動とし、各自で図書館へ行くなどして過ごす。午後は、片山が中国明代研究学会にて、「尋找商品經濟進展前的中国農村面貌——以珠江三角洲的可買売土地、不可買売土地為例」と題する講演を行い、他のメンバーもそれに参加する。

夜、研究学会を主宰した唐立宗副教授（国立暨南国際大学）をはじめ、巫仁恕研究員（中央研究院近代史研究所）、邱澎生教授（上海交通大学）、王鴻泰研究員（中央研究院歴史語言研究所）、連啓元副教授（中国文化大学）、何淑宜副教授（国立台北大学）らと会食する。

3 月 17 日（日） 台湾大学図書館（台北市大安区）

台湾大学図書館で調査を行う。この日は、各自がそれぞれの関心にしたいがい、資料を収集する。片山は日中戦争前夜と日本占領期における主要建築物の「地址」を、大坪は日本占領期における日本人商人の店舗占拠に関する資料を、稲田は『中央日報』に掲載された土地税についての記事を、山本・藤澤は本人固有の研究テーマに関する文献を中心に閲覧する。

3 月 18 日（月） 国史館（台北本館）

国史館での南京登記文書の調査を再開する。この日はダウンロードを行わず、閲覧未了の文書の閲覧と、エクセルへのデータ入力に集中する。それにより、残り一日で作業完了の目途がつく。夕刻、翌日以降の画像購入や別行動の調査についての打ち合わせを行う。

3 月 19 日（水） 国史館（台北本館）・台湾大学図書館

午前中は、二班に分かれて行動する。片山・大坪・藤澤は国史館へ行き、前日までの作業を継続する。稲田・山本は台湾大学図書館へ行き、南京登記文書の分析に必要な『中央日報』などの記事を閲覧する。午後は、稲田・山本を加えて全員で国史館での調査を続け、予定していた作業を完了させる。最後に、追加でダウンロードした画像データを購入し、予算を超える分は 2019 年夏の調査時に入手することにする。

夜、中央研究院歴史語言研究所の訪問学員として台湾に滞在中の遠藤総史氏（大阪大学東洋史大学院学生）および夫人の芽生さん（旧姓鈴木。大阪大学東洋史卒業生）と会食する。

3 月 20 日（水） 【台北発⇒関空着】エバー航空 BR130 便など

片山・稲田・大坪・山本・藤澤の 5 名が、調査を終え帰国する。